

# 道教組

2019年5月14日発行

DOKYOSO NEWS VOL.544

教職員とその家族を守る  
全教自動車保険

## 5つの特徴

- ①無事故割引を引き継ぎます
- ②団体扱い割引を10%に拡大
- ③家族の車もまとめるとさらに割引
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

有限会社 川上企画

(道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78  
TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472

## 全国学テ、英語「話すこと」調査は 直ちに中止を！道教委に要請

昨年度の予備調査でも  
課題が明らかに

4月18日の全国学力・学習状況調査で、中3を対象に英語「話すこと」の調査が初めて実施されました。この英語「話すこと」の調査は、昨年度の5月に全国136校を抽出して予備調査が実施されてきました。その実施状況について全教が行ったアンケート調査によると、「スピーキングの答えが聞こえてしまい、真似して答える生徒がいた」など、公正に実施できない可能性があることがあきらかになるとともに、準備やデータ処理のために教職員に大きな負担がかかることが報告されました。

予備調査の課題が解決されず  
各地で混乱や教職員の負担が

文科省や道教委は、予備調査によって「話すこと」の調査の問題点を把握していたと思いますが、英語「話すこと」調査の準備に過重な負担があったとの声が道教組に寄せられました。道教組が各単組を通じて実施した調査によると、左の枠内にあるように、予備調査と同様の問題点があったこと

が分かりました。

英語「話すこと」調査実施の  
文科省通知では

文科省は、今年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査

### ○事前の準備について

- ・前日の環境設定に時間がかかり、担当教諭他教頭、学年団、情報処理担当教諭などが夜8時過ぎまで作業。PC1基ずつ確認しなければならず、大変だった
- ・前日の朝にUSBメモリが1本送られて、午後3時までにすべてのPCの準備を整えるよう、町教委から指示があった。しかし、日中は授業があつて対応できないため、町教委には3時までに完了したと報告し、実際は放課後に準備作業を行ったため、深夜までかかった。
- ・生徒用PCは、セキュリティのため、シャットダウンするとインストールした内容が消えるのでPCを起動したままにしていたが、職員の手違いでシャットダウンしてしまい、当日朝にインストールをやり直した。
- ・インストールしたPCのうち1台にバグが起きてしまい、他のPC

## 全国学テ、英語「話すこと」調査 道教組に寄せられた全道各地の状況

- 当日の調査実施に関わって
  - ・PCへのインストールの関係で、その間PC室が使用できなかった。
  - ・仮パスワードと本パスワードがあり、2度の作業が必要で手間がかかった。
- 当日の調査実施に関わって
  - ・隣や同じPC室で答えている声がヘッドホン越しに聞こえる。1人の子が言う、分からない子はまねをして言う。今後、正しい答えを言える子にあえて大きい声で答えさせるようなケースもあり得るのではないかと。となりとの距離が近いと、声は普通に聞こえる。また、ついたてもないので、他の人の顔を見て笑ってしまうこともあった。
  - ・試験本番中、回答する生徒の音声は漏れ聞こえるため、生徒は集中できない。不十分な環境下の試験だった。
  - ・PCの性能によって、音声は1人1人に聞こえるまでにタイムラグがあった。

の実施について「設置管理者の判断により学校単位で『話すこと』調査を実施しないこととする事ができる」と事務連絡を发出了しました。さらに、『話すこと』調査の実施状況については、(中略)実施校の全国総数のみを公表する」ともしています。

これは、英語「話すこと」調査が学校現場に混乱を招き、ひいては教育活動にゆがみをもたらすものであることを文科省自身も認識していることを示しているとも言えます。

準備やデータ処理のために教職員に大きな負担がかかることは、道教委が「北海道アクション・プラン」を策定

するなど教職員の超勤縮減に努力する  
と言っていることとも逆行するもので  
あり、直ちに改善されなければなりま  
せん。

## 教育をゆがめる全国学力 そのもの中止をこそ

2007年に全国学力・学習状況調  
査が実施されて以降、全国から教育の  
営みを破壊する事例がいくつも明らか  
になっていきます。道教組は、全国学力  
・学習状況調査が子どもたちと学校を  
テストの点数によって競わせ序列化し、  
学校の教育をゆがめるものであると指  
摘し、その中止を求めてきました。

全教が、昨年4月から6月の期間に  
全国学力・学習状況調査が子どもたち  
と学校・教職員にどのような影響を及  
ぼしているのかを明らかにする目的で  
実施したアンケート調査によると、「事  
前の特別な指導」を「行った」と回答  
した学校が44.4%にも及び、その  
うち「事前の特別な指導」の内容は、「過  
去問題の指導をした」が73.0%、「学  
テを想定した宿題を出した」が40.  
6%となっています。また、「実施する  
教科の授業時間を増やした」と9.3  
%の学校が回答しています。あらため  
て、全国学力・学習状況調査が教育活  
動に大きなゆがみをもたらしているこ  
とが明らかにになりました。

## 道教委に要請書を提出

5月11日、道教組は、道教委に対し、  
全国学力・学習状況調査における中学

校英語「話すこと」調査に関わる要請  
書を提出しました。要請書では、全道  
各地での実施に伴う状況を伝えること  
もに、次の3点を要請しました。

### 道教委への要請内容

- ①教育活動に大きなゆがみをもたらす全国学力・学習状況調査には、参加しないこと。
- ②当面、中学校調査における英語「話すこと」調査について、道立学校では実施しないとともに、市町村立学校についても「話すこと」調査を実施しないこととする事ができる」とする文科省通知を市町村教委に十分に周知すること。
- ③英語「話すこと」調査を実施する際には、準備やデータ処理のために時間外にも業務をしなければならぬ現状を解消するための手段の手立てを講ずること。



道教委に対し、要請書を提出

## 稚内で、青年部総会を開催（4月13日）

今年度の道教組青年部総会は、4月13日に宗谷教育会館にて行いました。今年度の青年部活動では、「仲間とつながる、仲間を広げる」ということを大切に活動していきます。活動イメージは、「広い呼びかけと、直接の声掛け」です。チャシやSNSの活用で、各地に情報を宣伝したいと考えています。

それに加えて、「誰か来てください」ではなく、「あなたに来てほしい」と直接声をかけます。人としてのつながりを大切にしたいです。

それを具体化にするにあたって、今年度も「青年部と単組とのつながり」を図ります。6月1日に、上川教組がコミュニティ・オーガナイズングの学習会を行います。青年部長が参加する予定です。これに留まらず、各単組の学習会等に青年部総会のメンバーが参加して、新しい関係性を作りたいと思います。

また昨年に引き続き、高教組青年部



### 【2019年度青年部役員】

- 部長 富樫 耀（檜山）
- 副部長 山本仁史（網走）  
太田和真（上川）  
能代 岳（渡島）

との連携を密にしていきます。企画の宣伝や参加呼びかけを相互的に行っていきます。

今年度も道教組青年部主催「オトナの宿泊研修」を行います。今回は、旭川にて登山を含めたイベントを企画しています。夜には交流会も予定しています。

考えること、そして何よりも「動く」こと。忙しさ増すばかりですが、青年部の行動により、道教組全体に勢いづけられるよう努めたいと思います。

## 国民平和大行進 各地からスタート（5月6日）

今年で61年目となる原水爆禁止国民平和大行進が、5月6日に、礼文、網走、根室からスタートしました。

8月の広島、長崎まで、全国各地から平和の願いを込めた行進がつながります。

各地の行進には、道教組の組合員も重要な役割を担って参加しています。



礼文コース～利尻富士をバックに



根室コース～納沙布岬で